



ベンチャー企業向け

新証券市場の現状と今後

平成11年11月17日  
株式会社 ディー・ブレイン  
代表取締役 出縄 良人

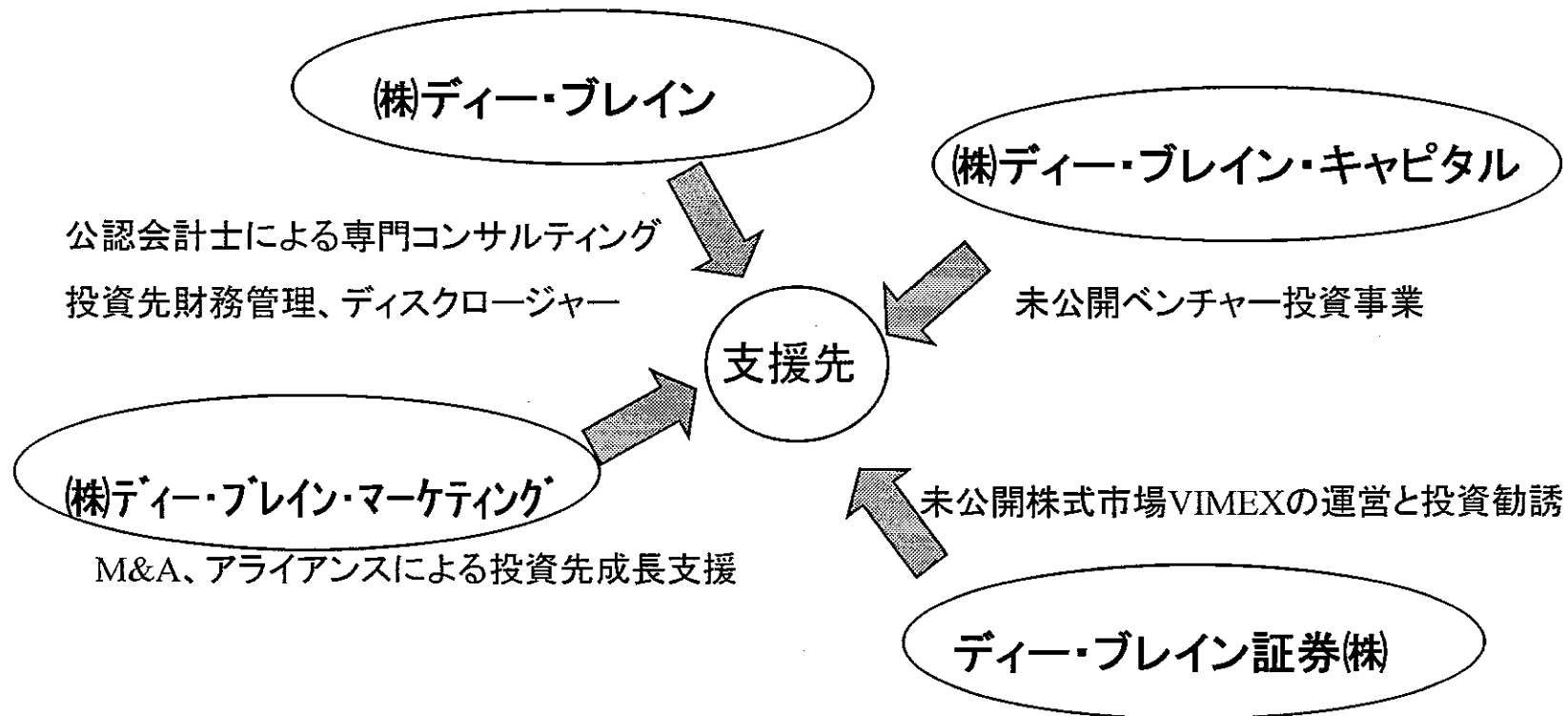
# ベンチャー企業の課題

- 成長資金の確保
  - 担保不足による銀行融資の限界
  - リスクマネーの導入の必要性
- 成長戦略に必要な人材の確保
  - マネジメント人材の欠如
  - 知名度と評価の向上による人材確保
- マーケティング戦略の必要性
  - マーケットが1番、技術は2番

# ディー・ブレイン・グループ

グループ理念:

「ベンチャー企業の事業成長を支えるインフラの構築」



# ディー・ブレイン・グループ

## (株)ディー・ブレイン

公認会計士を中心とする200名の専門家組織「ベンチャー支援実務研究会」によるベンチャー専門コンサルティング。ディー・ブレイン・キャピタルの投資にディスクロージャー支援、事業計画作成支援等のコンサルティングのほか、ベンチャーキャピタリスト養成スクール、M&Aスペシャリスト養成スクール等の専門家養成のためのビジネススクールを運営。

## ディー・ブレイン証券(株)

未公開株式市場VIMEXを運営。未公開企業の公募増資及び私募増資・私募債の発行等による直接金融資金調達を証券業務として支援。未公開株式・社債専門証券会社。

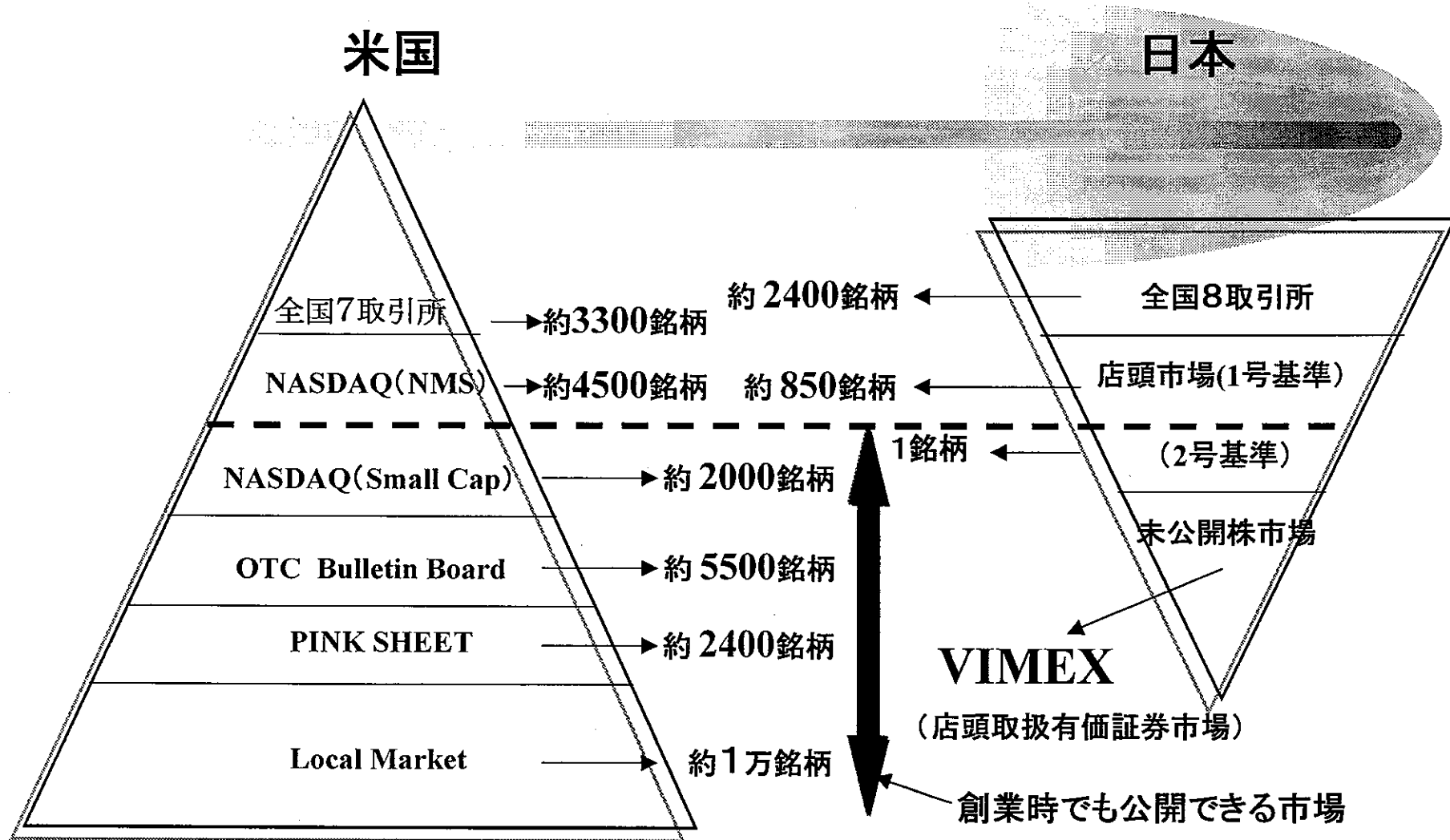
## (株)ディー・ブレイン・マーケティング

中堅中小企業のM&Aを中心に事業成長を支援。アライアンス支援イベント「ベンチャーサポート博」、アライアンス支援組織「ベンチャーパートナーズクラブ」の運営等により、提案型・コンサルティング型のM&Aを推進。

## (株)ディー・ブレイン・キャピタル

専門分野の経営経験者の事業評価力・育成力を生かしたコラボレーション型のベンチャーキャピタルファンド「インターネット成長未公開企業ファンド」など、企業育成型のベンチャーキャピタル事業を展開。EXIT STRATEGYに未公開株式市場と成長支援型M&Aを活用。

# 日本と米国の証券市場の違い



# ベンチャー型市場の台頭

- **ナスダック・ジャパン**

全米証券業協会とソフトバンクが共同出資の準備会社を設立。新たな証券業協会を創設して始める新たな店頭市場。ベンチャー企業向けに株式公開を容易にすると発表。

- **店頭2号基準**

従来の店頭特則市場を本則に吸収。新たに赤字企業でも 公開できる新基準を設定。1号銘柄「グッドウィル」。 このほか、店頭市場改革として公開前規制を撤廃。

- **東証マザーズ**

ベンチャー企業向けに債務超過であっても上場できる上場基準を設定。成長性が見込めることと徹底したディスクロージャーを要件に、平成11年11月11日よりスタート

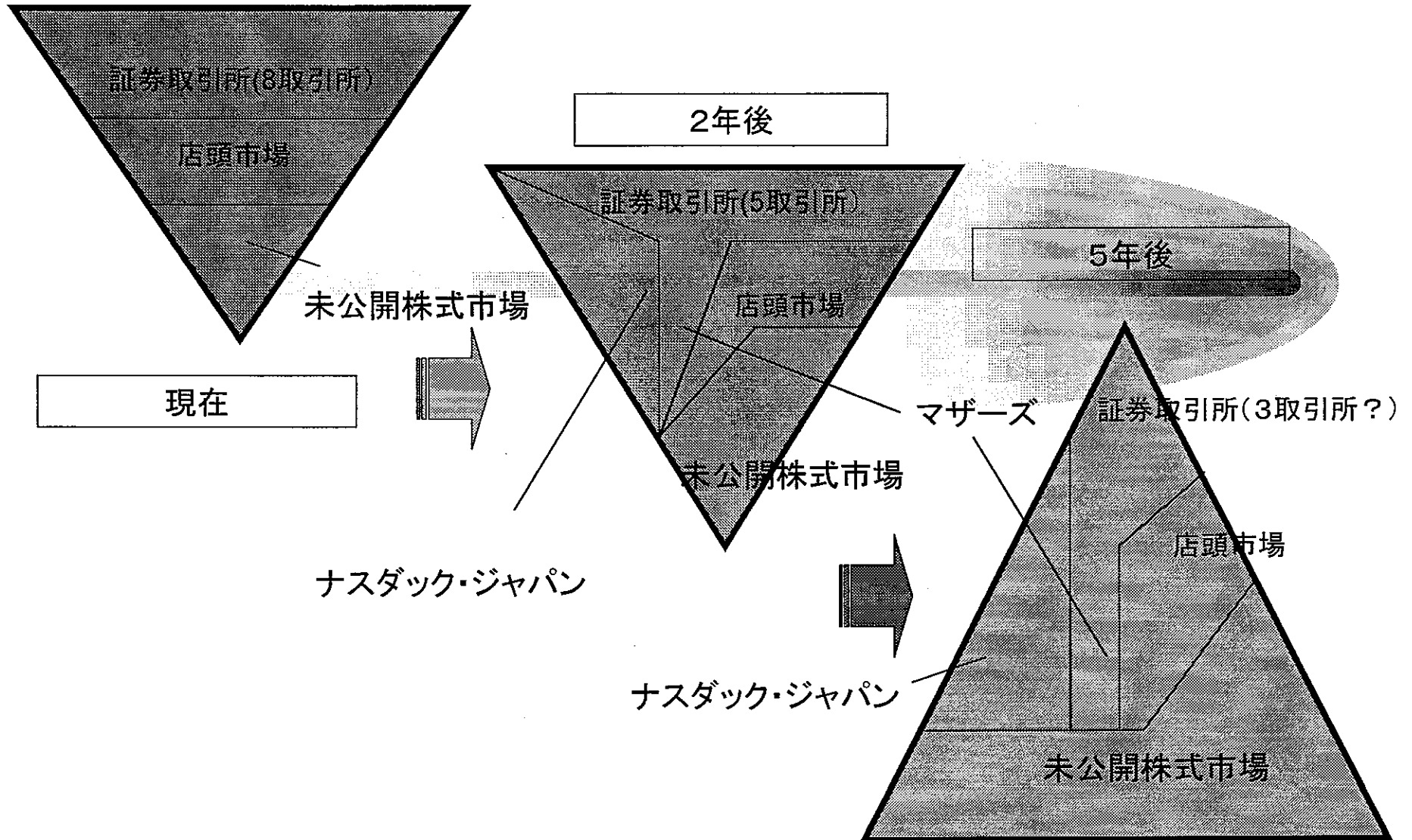
- **大証ベンチャー市場**

従来の特則市場を廃止。新たなベンチャー企業向け公開 基準を設定した。1号銘柄「エスケイジャパン」。

- **未公開株式市場VIMEX(ヴァイメックス)**

ディー・ブレイン証券が運営する私設市場。日本証券業協会の店頭取扱有価証券制度(グリーンシート銘柄)により7社のベンチャー企業が登録されて売買及び公募増資による資金調達を実施。

# ベンチャー型新市場の影響



# ナスダック・ジャパンの構想

- ナスダックの名称を使用した新株式市場の創設
- 米国NASDAQ登録銘柄を売買できる市場
- 日本の成長未公開企業の積極的登録
- 市場を運営する新たな証券業協会の設立
- 全米証券業協会とソフトバンクの共同出資会社ナスダック・ジャパン・プランニングを設立、ナスダック・ジャパンプラブを組織化。



# 米国NASDAQの特徴

- 高い流動性を保つマーケットメイカー制度
- 決して低くない株式公開のハードル
- 徹底したディスクロージャーと自己責任投資の大人の市場
- 8割がペニーストックのスマールキャップ
- 活発なミューチュアルファンド投資
- 専門証券会社が活躍する市場